



報道関係者各位

産業能率大学スポーツマネジメント研究所調査

2022 北京五輪 意識調査による部門別ランキング

競技視聴満足「カーリング」、MVP「平野歩夢」、知名度上昇「鍵山優真」が1位

産業能率大学スポーツマネジメント研究所（所長：情報マネジメント学部教授 中川直樹）は、2022 北京五輪前後にわたり実施競技と日本代表選手に関する調査を実施しました。北京五輪前調査は1月26日（水）から28日（金）まで1万人を対象に、日本代表選手の知名度やメダル予想などを尋ね、北京五輪後調査は2月25日（金）から26日（土）まで事前調査の回答者から1千人を抽出し、視聴して良かった競技や選手の「視聴」や「満足」、「MVP」などについて尋ねました。いずれもインターネット調査会社を通じて実施しています。

MVP

順位	選手名	競技名	比率
1位	平野歩夢	スノーボード	26.2%
2位	高木美帆	スピードスケート	15.0%
3位	羽生結弦	フィギュアスケート	10.3%
4位	小林陵侖	スキージャンプ	5.0%
5位	藤沢五月	カーリング	3.2%

MVP に選んだ理由

1位 平野歩夢選手

- ・ 人類初の特技で2回目の時、低い点数であったが、3回目も同じ技でやり、双方ミスもなく3回目はさらに高さを出して成功したのが印象的であった。（愛知県 60代男性）
- ・ 金メダルの実力、メディア等での対応にスポーツマンシップを感じた。（東京都 30代女性）
- ・ 競技前は不言実行、競技後に客観的、理論的に問題提起し、今後の対応、対策等、あるべき方向性を示していた。とてもクールで爽快だった。（長崎県 60代男性）

2位 高木美帆選手

- ・ 5種目にチャレンジしたこともすごいし、一つ一つ終わるごとの言葉もまっすぐで素敵だった。（新潟県 50代女性）
- ・ 日本選手団の主将で、5種目に出場し、金1銀3と大活躍。（北海道 60代男性）

3位 羽生結弦選手

- ・ 挑戦という勇氣、希望を見せてくれたから（大阪府 50代女性）
- ・ フィギュアスケート界のため、新たなことに挑戦し、道を示した事に感動したから。（東京都 30代男性）

競技視聴満足度

順位	競技名	比率
1位	カーリング	43.4%
2位	スノーボード	40.9%
3位	フィギュアスケート	40.2%
4位	スキージャンプ	34.2%
5位	スピードスケート	30.5%

知名度上昇

順位	選手名	競技名	上昇 PT
1位	鍵山優真	フィギュアスケート	30.3
2位	石崎琴美	カーリング	30.0
3位	鈴木夕湖	カーリング	29.0
4位	吉田知那美	カーリング	28.7
5位	藤沢五月	カーリング	28.5



【調査結果】

＜競技視聴満足＞

2022北京五輪で実施した競技のなかで視聴して良かったものを全て選んでもらった

【結果概要】

- ◇ 全体および男性の全世代で「カーリング」が1位
- ◇ 女性は全世代で「フィギュアスケート」が1位
- ◇ 男女とも2位は「スノーボード」
- ◇ 男女ともTOP5は共通（カーリング、スノーボード、フィギュアスケート、スキージャンプ、スピードスケート）

全体 N=1,000		
順位	競技名	比率
1	カーリング	43.4%
2	スノーボード	40.9%
3	フィギュアスケート	40.2%
4	スキージャンプ	34.2%
5	スピードスケート	30.5%
6	ノルディック複合	14.3%
7	ショートトラック	11.3%
8	アイスホッケー	8.8%
9	フリースタイルスキー	6.8%
10	アルペンスキー	5.5%

性別 × 年代 TOP3				
性別	年代	1位	2位	3位
男性	20代	カーリング	スノーボード	フィギュアスケート
	30代	カーリング	スノーボード	スキージャンプ
	40代	カーリング	スノーボード	スキージャンプ
	50代	カーリング	スキージャンプ	スノーボード
	60代	カーリング	スキージャンプ	スピードスケート
女性	20代	フィギュアスケート	スノーボード	カーリング
	30代	フィギュアスケート	カーリング	スノーボード
	40代	フィギュアスケート	スノーボード	カーリング
	50代	フィギュアスケート	スノーボード	カーリング
	60代	フィギュアスケート	スノーボード	カーリング

男性 N=501		
順位	競技名	比率
1	カーリング	46.9%
2	スノーボード	37.3%
3	スキージャンプ	36.1%
4	スピードスケート	31.7%
5	フィギュアスケート	26.7%
6	ノルディック複合	15.4%
7	アイスホッケー	11.6%
8	ショートトラック	10.4%
9	フリースタイルスキー	7.8%
10	アルペンスキー	7.4%

女性 N=499		
順位	競技名	比率
1	フィギュアスケート	53.7%
2	スノーボード	44.5%
3	カーリング	39.9%
4	スキージャンプ	32.3%
5	スピードスケート	29.3%
6	ノルディック複合	13.2%
7	ショートトラック	12.2%
8	アイスホッケー	6.0%
9	フリースタイルスキー	5.8%
10	クロスカントリースキー	5.0%



競技視聴満足の変遷

本研究所では過去冬季五輪の調査を4回（2010、2014、2018、2022）実施してきたが、今回はじめて「カーリング」が1位となった。また順位こそ変動があるが、「スノーボード」の満足度は大会を重ねるごとに確実に上昇。

順位	2010 バンクーバー		順位	2014 ソチ	
	競技名	満足率		競技名	満足率
1	フィギュアスケート	44.5%	1	フィギュアスケート	45.1%
2	スピードスケート	27.6%	2	スキー ジャンプ	36.7%
3	カーリング	23.2%	3	スノーボード	32.9%
4	フリースタイルスキー	14.7%	4	ノルディック複合	23.1%
5	ショートトラック	12.3%	5	フリースタイルスキー	19.7%
6	スノーボード	10.7%	6	カーリング	17.4%
7	スキージャンプ	8.8%	7	アルペンスキー	17.2%
8	アルペンスキー	5.7%	8	スピードスケート	12.3%
9	アイスホッケー	4.7%	9	クロスカントリースキー	9.3%
10	ノルディック複合	4.3%	10	ショートトラック	7.8%
11	クロスカントリースキー	4.0%	11	アイスホッケー	6.5%
12	ボブスレー	2.9%	12	ボブスレー	3.8%
13	リュージュ	2.7%	13	スケルトン	2.8%
14	スケルトン	2.6%		リュージュ	
15	バイアスロン	1.2%	15	バイアスロン	2.0%

順位	2018 平昌		順位	2022 北京	
	競技名	満足率		競技名	満足率
1	フィギュアスケート	60.7%	1	カーリング	43.4%
2	スピードスケート	59.1%	2	スノーボード	40.9%
3	カーリング	55.9%	3	フィギュアスケート	40.2%
4	スノーボード	34.4%	4	スキージャンプ	34.2%
5	ショートトラック	33.2%	5	スピードスケート	30.5%
6	スキージャンプ	27.2%	6	ノルディック複合	14.3%
7	ノルディック複合	23.3%	7	ショートトラック	11.3%
8	フリースタイルスキー	15.6%	8	アイスホッケー	8.8%
9	アルペンスキー	12.9%	9	フリースタイルスキー	6.8%
10	クロスカントリースキー	12.7%	10	アルペンスキー	5.5%
11	アイスホッケー	11.4%	11	クロスカントリースキー	4.1%
12	ボブスレー	5.6%	12	ボブスレー	1.7%
13	スケルトン	5.4%	13	バイアスロン	1.6%
14	バイアスロン	4.9%	14	リュージュ	1.1%
	リュージュ		15	スケルトン	1.0%



<選手別観戦率>

2022 北京五輪で競技を視聴した選手をすべて選んでもらった

【結果概要】

- ◇ 全体および女性 1 位は羽生結弦選手（フィギュアスケート）だが、男性 1 位は藤沢五月選手（カーリング）
- ◇ 女性は全世代で羽生結弦選手が 1 位だが、男性では世代によって 1 位が変化
- ◇ 男性は「カーリング」出場選手、女性は「フィギュアスケート」出場選手が上位の傾向
- ◇ 全体・男性・女性ともトップ 10 は 5 競技に集中（フィギュアスケート、カーリング、スノーボード、スピードスケート、スキージャンプ）

全体 N=1,000				性別 × 年代 1 位			
順位	選手名	競技名	比率	性別	年代	選手名	競技名
1	羽生結弦	フィギュアスケート	53.3%	男性	20 代	平野歩夢	スノーボード
2	藤沢五月	カーリング	47.6%		30 代	藤沢五月	カーリング
3	平野歩夢	スノーボード	47.2%		40 代	藤沢五月	カーリング
4	高木美帆	スピードスケート	44.5%		50 代	高木美帆	スピードスケート
5	宇野昌磨	フィギュアスケート	41.0%		60 代	高木美帆	スピードスケート
6	高梨沙羅	スキージャンプ	39.5%	女性	20 代	羽生結弦	フィギュアスケート
7	吉田知那美	カーリング	38.7%		30 代	羽生結弦	フィギュアスケート
8	小林陵侖	スキージャンプ	38.5%		40 代	羽生結弦	フィギュアスケート
9	坂本花織	フィギュアスケート	38.4%		50 代	羽生結弦	フィギュアスケート
10	吉田夕梨花	カーリング	36.8%		60 代	羽生結弦	フィギュアスケート

男性 N=501			
順位	選手名	競技名	比率
1	藤沢五月	カーリング	47.9%
2	羽生結弦	フィギュアスケート	43.7%
	高木美帆	スピードスケート	
4	平野歩夢	スノーボード	42.3%
5	吉田知那美	カーリング	39.5%
6	高梨沙羅	スキージャンプ	37.9%
7	小林陵侖	スキージャンプ	37.5%
8	吉田夕梨花	カーリング	36.3%
9	高木菜那	スピードスケート	35.5%
10	鈴木夕湖	カーリング	34.1%

女性 N=499			
順位	選手名	競技名	比率
1	羽生結弦	フィギュアスケート	62.9%
2	平野歩夢	スノーボード	52.1%
3	宇野昌磨	フィギュアスケート	50.9%
4	藤沢五月	カーリング	47.3%
5	鍵山優真	フィギュアスケート	45.3%
	高木美帆	スピードスケート	
7	坂本花織	フィギュアスケート	43.5%
8	高梨沙羅	スキージャンプ	41.1%
9	小林陵侖	スキージャンプ	39.5%
10	吉田知那美	カーリング	37.9%



<MVP>

2022 北京五輪の日本代表 MVP を 1 名選んでもらった

【結果概要】

- 女性ではすべての年代で平野歩夢選手（スノーボード）が1位
- 男性のトップ3は全員「金メダリスト」で結果重視の傾向が強い
- 男性 50・60 代は、金メダルに加え銀メダル3個を獲得した高木美帆選手（スピードスケート）が1位
- メダルの獲得はならなかったが、女性2位の羽生結弦選手（フィギュアスケート）、男性6位の高梨沙羅選手（スキージャンプ）を挙げる声も多かった

全体 N=1,000			
順位	選手名	競技名	比率
1	平野歩夢	スノーボード	26.2%
2	高木美帆	スピードスケート	15.0%
3	羽生結弦	フィギュアスケート	10.3%
4	小林陵侖	スキージャンプ	5.0%
5	藤沢五月	カーリング	3.2%
6	鍵山優真	フィギュアスケート	1.7%
7	坂本花織	フィギュアスケート	1.5%
8	高梨沙羅	スキージャンプ	1.4%
9	吉田知那美	カーリング	0.8%
10	宇野昌磨	フィギュアスケート	0.6%
	高木菜那	スピードスケート	

性別 × 年代 1 位			
性別	年代	選手名	競技名
男性	20代	平野歩夢	スノーボード
	30代	平野歩夢	スノーボード
	40代	平野歩夢	スノーボード
	50代	高木美帆	スピードスケート
	60代	高木美帆	スピードスケート
女性	20代	平野歩夢	スノーボード
	30代	平野歩夢	スノーボード
	40代	平野歩夢	スノーボード
	50代	平野歩夢	スノーボード
	60代	平野歩夢	スノーボード

男性 N=501			
順位	選手名	競技名	比率
1	平野歩夢	スノーボード	22.6%
2	高木美帆	スピードスケート	19.6%
3	小林陵侖	スキージャンプ	5.4%
4	藤沢五月	カーリング	3.8%
5	羽生結弦	フィギュアスケート	3.2%
6	高梨沙羅	スキージャンプ	1.8%
7	吉田知那美	カーリング	1.4%
8	鍵山優真	フィギュアスケート	1.2%
9	高木菜那	スピードスケート	1.0%
10	宇野昌磨	フィギュアスケート	0.6%
	坂本花織	フィギュアスケート	

女性 N=499			
順位	選手名	競技名	比率
1	平野歩夢	スノーボード	29.9%
2	羽生結弦	フィギュアスケート	17.4%
3	高木美帆	スピードスケート	10.4%
4	小林陵侖	スキージャンプ	4.6%
5	藤沢五月	カーリング	2.6%
6	坂本花織	フィギュアスケート	2.4%
7	鍵山優真	フィギュアスケート	2.2%
8	高梨沙羅	スキージャンプ	1.0%
9	宇野昌磨	フィギュアスケート	0.6%
10	小平奈緒	スピードスケート	0.4%



<知名度上昇>

2022 北京五輪の開幕前と閉幕後で認知度が大きくあがった選手をランキングにまとめた

【結果概要】

- ◇ フィギュアスケート男子シングルに初出場し銀メダルを獲得した鍵山優真選手（フィギュアスケート）が全体の1位
- ◇ 男性1位は石崎琴美選手（カーリング）、女性1位は藤沢五月選手（カーリング）
- ◇ カーリング女子団体で銀メダルを獲得したロコ・ソラーレの5選手全員がトップ10入り。連続出場の4選手も再び知名度を上げたが、リザーブとして初出場した石崎琴美選手の知名度が最もアップした
- ◇ スピードスケート女子チームパシュートで銀メダルを獲得した3人全員がトップ10入り。2大会連続の金メダル獲得とはならなかったが、再び知名度を上げた

全体 N=1,000					
順位	選手名	競技名	事前調査	事後調査	上昇Pt
1	鍵山優真	フィギュアスケート	24.2%	54.4%	30.3
2	石崎琴美	カーリング	6.6%	36.6%	30.0
3	鈴木夕湖	カーリング	10.1%	39.0%	29.0
4	吉田知那美	カーリング	17.0%	45.7%	28.7
5	藤沢五月	カーリング	34.2%	62.7%	28.5
6	吉田夕梨花	カーリング	14.5%	42.0%	27.6
7	高木菜那	スピードスケート	34.6%	61.9%	27.3
8	小林陵侷	スキージャンプ	29.3%	54.9%	25.6
9	佐藤綾乃	スピードスケート	8.3%	28.7%	20.4
10	高木美帆	スピードスケート	54.2%	71.2%	17.0

性別	年代	選手名	競技名
男性	20代	鍵山優真	フィギュアスケート
	30代	鍵山優真	フィギュアスケート
	40代	石崎琴美	カーリング
	50代	石崎琴美	カーリング
	60代	石崎琴美	カーリング
女性	20代	鍵山優真	フィギュアスケート
	30代	鍵山優真	フィギュアスケート
	40代	藤沢五月	カーリング
	50代	鈴木夕湖	カーリング
	60代	石崎琴美	カーリング

男性 N=501					
順位	選手名	競技名	事前調査	事後調査	上昇Pt
1	石崎琴美	カーリング	9.0%	36.1%	27.1
2	鍵山優真	フィギュアスケート	19.0%	45.9%	26.9
3	鈴木夕湖	カーリング	13.7%	38.3%	24.6
4	吉田知那美	カーリング	21.9%	45.9%	24.1
5	高木菜那	スピードスケート	37.4%	60.5%	23.1
6	藤沢五月	カーリング	40.5%	63.1%	22.6
7	吉田夕梨花	カーリング	19.3%	41.5%	22.2
8	佐藤綾乃	スピードスケート	11.0%	29.5%	18.6
9	小林陵侷	スキージャンプ	34.1%	51.7%	17.6
10	坂本花織	フィギュアスケート	43.3%	60.5%	17.2

女性 N=499					
順位	選手名	競技名	事前調査	事後調査	上昇Pt
1	藤沢五月	カーリング	27.8%	62.3%	34.5
2	小林陵侷	スキージャンプ	24.5%	58.1%	33.6
	鍵山優真	フィギュアスケート	29.4%	62.9%	
4	吉田知那美	カーリング	12.1%	45.5%	33.3
	鈴木夕湖	カーリング	6.4%	39.7%	
6	石崎琴美	カーリング	4.0%	37.1%	33.0
7	吉田夕梨花	カーリング	9.6%	42.5%	32.9
8	高木菜那	スピードスケート	31.8%	63.3%	31.5
9	佐藤綾乃	スピードスケート	5.6%	27.9%	22.3
10	三浦璃来	フィギュアスケート	6.0%	26.7%	20.7



【調査概要】

調査時期：2022年2月25日(金)～26日(土)の2日間

調査方法：インターネットリサーチ

調査対象：全国 20～69歳対象 1,000人

※サンプル割付は、総務省統計局の都道府県別・性別・世代別の最新推計構成比に基づく。

(2021年12月20日公開、2020年10月1日現在人口推計)

調査担当：小野田哲弥研究員 (情報マネジメント学部 教授)

有効回答者 (性別・年代別内訳) 単位：人

全体		1,000
性別	男性	501
	女性	499
年代	20代	164
	30代	182
	40代	235
	50代	216
	60代	203
	性年代	男性 20代
	男性 30代	92
	男性 40代	118
	男性 50代	108
	男性 60代	99
	女性 20代	80
	女性 30代	90
	女性 40代	117
	女性 50代	108
	女性 60代	104

有効回答者 (地方別内訳)

北海道・東北地方	北海道	108
	青森県	
	岩手県	
	宮城県	
	秋田県	
	山形県	
	福島県	
関東地方	茨城県	357
	栃木県	
	群馬県	
	埼玉県	
	千葉県	
	東京都	
	神奈川県	
甲信越・北陸地方	新潟県	61
	富山県	
	石川県	
	福井県	
	山梨県	
	長野県	
東海地方	岐阜県	118
	静岡県	
	愛知県	
	三重県	

単位：人

近畿地方	滋賀県	162
	京都府	
	大阪府	
	兵庫県	
	奈良県	
	和歌山県	
中国地方	鳥取県	55
	島根県	
	岡山県	
	広島県	
	山口県	
四国地方	徳島県	28
	香川県	
	愛媛県	
	高知県	
九州・沖縄地方	福岡県	111
	佐賀県	
	長崎県	
	熊本県	
	大分県	
	宮崎県	
	鹿児島県	
沖縄県		

【産業能率大学】ホームページ：<https://www.sanno.ac.jp/>

◆本件に関するご取材◆

産業能率大学 企画課

〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15

Email：kikaku@hj.sanno.ac.jp TEL：[03-3704-0731](tel:03-3704-0731)